



おおいど  
大井戸

近世大多喜城初代城主の本多忠勝が掘らせたといわれる井戸で、周囲約17m、深さが約20mあり、現存する城内井戸としては国内でも最大級といわれています。隣接する千葉県立大多喜高等学校の敷地内にあります。



やくいもん  
薬医門

薬医門とは、屋根を支える本<sup>ほんばしら</sup>柱が中心より前方にあり、後ろに控<sup>ひかえばしら</sup>柱をつけた形式の門です。天保13年(1842)の城内火災の後に建築された二の丸御殿の門と推定されています。隣接する千葉県立大多喜高等学校の敷地内にあります。



## 大多喜水道跡

大多喜水道は、大多喜藩知事大河内<sup>おおこうち</sup>（松平）正質<sup>まさただ</sup>の時代に念願であった工事が具体化し、明治2年11月に工事が始まり、明治3年5月に完成しました。

近接する山の麓<sup>ふもと</sup>を水源とし、城内二の丸にいたる全長5,760mの水道で、その3分の2はこうした<sup>すいどう</sup>隧道（トンネル）です。

この水道によって城下200戸への飲料水の供給、20haに及ぶ水田に灌漑<sup>かんがい</sup>が行われるようになりました。城下<sup>しろした</sup>駐車場から大多喜城分館へ向かう坂道の途中にあります。